



目次

1. 「チェンジエージェント」の評価レポート
in アジア太平洋地域
2. 「世界ユースデー」
～アフリカのユースの現状の展望～
from アフリカ
3. 世界 YMCA 大会の動画公開中

日本 YMCA 同盟
〒160-0003 東京都新宿区本塩町 7 番
03-5367-6640

「チェンジエージェント」の評価レポート

アジア太平洋 YMCA 同盟 APAY e-News 8 月号

2012 年夏より本格始動した、世界の YMCA が一丸となって行うユースエンパワーメント事業の「Change Agent: チェンジエージェント¹」の第 1 期が無事終了しました。アジア太平洋 YMCA 同盟 (APAY) 加盟国から参加したチェンジエージェントの報告は下記のとおりです。

- ・ APAY 加盟国のうち 20 の YMCA から職員・ボランティア含め 44 人のチェンジエージェントを選出。うち 20 名が女性、24 名が男性、全体の 75% がユースボランティア。44 名のうち、26 名は選出されてから修了期間まで、継続して活動を行うことができた
- ・ APAY として、2012 年にスリランカ、2013 年に香港において、チェンジエージェントの研修を実施。世界規模での研修は、2013 年にチェコで行われ、60 ヶ国から 270 名のチェンジエージェントが集結し、APAY 加盟国からは 24 名が参加。このチェコで行われた研修では、各々の YMCA においてどんな企画を遂行するかディスカッションが行われた。
- ・ 世界 YMCA 同盟による研修 (E-Learning) では、様々な課題が与えられ APAY の 25 名のチェンジエージェントは全て無事提出することができた。
- ・ 6 月 29 日から 7 月 6 日にアメリカ・コロラド州で行われた世界 YMCA 大会には、APAY から 23 名のチェンジエージェントが参加し、グループワークやユースエンパワーメントの今後の計画立案において重要な役割を担った。
- ・ チェンジエージェントの役割が十分に果たせるよう、YMCA の経験豊富なシニアをサポーター役 (メンター) とし、個々のチェンジエージェントとペアを組んだ。
- ・ APAY のチェンジエージェント達は、APAY 独自のプロジェクトとして「APAY Green Challenge²」を 2013 年に

世界中のユースと一緒に
社会に変革をもたらす、
「チェンジエージェント」

¹ 世界 YMCA 同盟によって主導されているユースエンパワーメント事業の一環で、主に 10 代後半～30 歳代前半の YMCA に関わる職員、ボランティア、委員などから選出されます。選出基準は各国や地域によって細かな違いはありますが、基本的に YMCA の事業に継続的に携わっていることが前提条件となっています。

チェンジエージェントの役割とは、名前の通り各々の YMCA とその周辺社会 (地域) において、変革をもたらすことを期待されています。より多くのユースを YMCA に取り込む、既にある YMCA の関係者の関係をより密にする、地域社会などにおいて YMCA の認知度を高める等々、チェンジエージェントが主体となって変化を生み出し、YMCA の活動を活性化させることが求められています。

第 1 期では世界各国から 220 名のチェンジエージェントが選出されました。ウェブ上での様々な研修が行われ、YMCA の世界的な動きを理解したり、変革をもたらすために必要なファシリテーション力を学んだり、様々な国や地域のユース達と切磋琢磨しながら、チェンジエージェント 1 人 1 人にも変革をもたらしてきました。任期が 2 年と定められている為、第 1 期生はその任務を修了しましたが、引き続き YMCA の活動には関わることが求められています。また次期チェンジエージェントの選出に向けた準備も始まっています。

² 2013 年 10 月に行われた、APAY 加盟 YMCA 全体でのイベントで、環境保護をテーマにそれぞれのローカル YMCA でユースが主体となって行った活動。エコバックやマイ箸使用の推進、近隣地域の清掃活動などが行われ、国内では 13 の拠点で様々な活動が行われました。

行い、21名のチェンジエージェントが積極的な活動を行った。

- ・ 2014 年春に行われた World Challenge³では、26 名のチェンジエージェントが各々の所属 YMCA においてイベントを実施した。
- ・ YMCA として初の試みである「Change Agent : チェンジエージェント」、第 1 期生は 18 名が離脱し任期まで継続することができなかった。これはチェンジエージェントの全体像や期待、役割の理解に違いがあったり、想定したものとの差が生じていたことが予想される。各国の同盟とローカル YMCA との間にも何らかの差が生じていた可能性は否定できない。世界同盟の求める基準には満たず離脱してしまったが、中には現在もローカル YMCA で活躍しているチェンジエージェントともいるとの報告もある。

	全体	研修の APAY 参加者による数	世界の同盟参加者による数	ローカル YMCA において活動を行った CA 数	密に連絡を取れた CA	離脱者
男性	24 (55%)	13 (29%)	14 (31%)	13 (29%)	14 (31%)	2 (5%)
女性	20 (45%)	13 (29%)	12 (27%)	20 (45%)	15 (34%)	3 (7%)
職員	11 (25%)	10 (22%)	9 (20%)	10 (22%)	11 (25%)	4 (10%)
ユースボランティア	33 (75%)	16 (36%)	17 (38%)	23 (52%)	18 (40%)	1 (2%)
東アジア	11 (25%)	6 (13%)	9 (20%)	8 (18%)	9 (20%)	0 (0%)
東南アジア	18 (40%)	9 (20%)	6 (13%)	14 (31%)	11 (25%)	3 (7%)
南アジア	11 (25%)	8 (18%)	7 (16%)	9 (20%)	7 (16%)	0 (0%)
太平洋地域	4 (10%)	3 (6%)	4 (10%)	2 (5%)	2 (5%)	2 (5%)
合計	44 (100%)	26 (57%)	26 (57%)	33 (75%)	29 (65%)	5 (11%)

※人数（全体に占める割合）

※CA=Change Agent : チェンジエージェント

今後の課題としては、中にはインフラ設備が十分に整っていない国や地域から参加しているチェンジエージェントもおり、現状のインターネットを介してのコミュニケーションが中心の取り組み方だけでは、その負担を個人で負っていることが挙げられます。居住地域が都市部から離れた場所である場合は、その負担はさらに大きなものとなります。また、インターネットにアクセスできる環境が整ったとしても、言語と時差の壁も存在しています。世界のユースと繋がることによって生まれる良い効果がある一方で、全員が同じ条件・状況で参加することは困難が伴い、現状ではその困難は個々人の努力に任されていることが課題となっています。

第 1 期のチェンジエージェントには今後も各々の YMCA に繋がり、各々の YMCA や APAY の課題を見つめその課題に積極的に取り組むことや、2015 年 9 月に行われる APAY 総会での活躍を期待しています。

³ 2014 年 5 月末から 6 月頭にかけて行われた、YMCA 生誕 170 周年記念イベントです。170 周年を祝う記念イベントが行われたり、ユースエンパワーメントを広めるにあたり、I stand up for young people and I want their voice to be heard というメッセージの動画集を作成したりしました。

「世界ユースデー」～アフリカのユースの現状の展望～

アフリカ YMCA 同盟 Africa Youth News 2014 年 8 月 12 日配信

8 月 12 日の世界ユースデー（International Youth Day）に合わせて、アフリカのユースが置かれている現状やなぜ今ユースが着目されているかについて、アフリカ YMCA 同盟会長の James Ekow Rhule 氏に尋ねました。

「世界ユースデー」とは？

国際連合総会（略称：国連総会）によって 1999 年 12 月に制定され、8 月 12 日を International Youth Day：世界ユースデーとしています。ユース⁴の人権や尊厳の重要性、経済発展などが進む中でのユースの役割の重要性、などを世界に広めていくことを目的としています。

世界のユースの人口は約 1.1 億人とされ、世界の人口の 40%を占めると言われています。全世界の人口の 40%をも占めるユースが、大変困難な状況に置かれているこの事実を軽視することができますか？

「世界ユースデー」にあたり、アフリカのユースの発展の為にできることは？

アフリカの多くのユースは、不十分な教育・雇用の機会、飢餓や貧困、薬物中毒、様々な意思決定の権限が与えられていない、などの課題に直面しています。本来ユースは活力にあふれ、地域をけん引していくべき存在ですが、様々な課題によってユースの立場は弱くされ、結果として地域全体も脆弱になってしまっています。

こうした悪循環を断ち切る為に、様々な諸課題に取り組む組織、特に YMCA はこの「世界ユースデー」の波に乗り、大衆にユースの発展の重要性を伝えると同時に、ユースがその社会的存在価値や責任が自身にあるということを再認識できるよう、様々な働きかけをするべきなのです。

2014 年のテーマは、「Youth and Mental Health：ユースと精神衛生」です。ユースの精神的苦悩や病を軽視されたり差別されたりすることが多いなか、そうした現状の認知度を高め、必要な治療や支援を十分に受けることができるよう世界へ訴えることがテーマとされています。特にユースの皆さんには、差別や偏見をなくすために、自ら立ち上がりこのテーマについて議論をしたり、現状について学びを深めることを期待します。

**アフリカのユースが抱えるもっとも深刻な課題とはどのようなことだと思いますか？**

課題は山積していますが、特に失業、HIV/AIDS、薬物・アルコール中毒だと思います。

ある調査によると、アフリカの 30 歳以下の約 70%の人達は失業状態にあり、その数は人口の約半数を占めます。皮肉なことに、今のユースは過去に比べて教育の機会も質も向上していますが、そのユースを十分に受け止めるだけの雇用の機会がないのが現状です。

HIV/AIDS に感染しているユースの人口は、世界の人口の 3 分の 1 を占めます。そしてその 78%がサハラ砂漠以南のアフリカ諸国に集中しています。

若い世代の人達のアルコールや薬物依存は年々増えています。これは、失業や世の中に対する不信感、自身の人生への不安などからくるものだと、私は予想しています。この点については、正式な調査が必要だと思います。

様々な課題に直面するユースにとって、どんなことが必要とされていますか？

ユース自らが雇用を創出できるよう、起業することを視野に入れた新たな教育が必要だと思います。現状を見る限り、アフリカ諸国の政



⁴ YMCA の中でも様々な定義がありますが、世界の YMCA では平均して 11 歳～30 歳未満の若者を「ユース」と称しています。

府による雇用創出は期待できません。そうした中、ただ勉強をして試験に合格し、就職先を見つけようとするこれまで通りの教育では不十分です。

これまでユースは様々な物事の“対象”とされてきました。諸課題の被害の対象、支援の対象など。しかしこの“対象”から脱却し“主体”となるべきです。主体的に様々な課題を社会へ訴えかけ、自ら仲間と支えあい、自信を取り戻し、精力的に責任感を持って活動を行うべき存在です。

アフリカのユースを対象とした取り組みの中で、YMCA はどんな成果を生み出してきましたか？

アフリカ YMCA 同盟は、まずユースエンパワーメントの重要性を広めてきました。特に「Subject to Citizen(S2C)：対象から主体へ」という取り組みは、これまでのアフリカのユースの考え方に革命をもたらしたといっても過言ではないと思います。これまで受け身であったユースたちが、仲間たちと立ち上がり与える側となり、地域をけん引し始めています。自信を取り戻す、より良い社会を構築していくための重要な存在であることに気が付く、誰かに支持されるのを待つのではなく自ら行動を起こすことの大切さとやりがいを感じる、このようにしてアフリカのユース達は変わってきました。そしてこの S2C による波及効果はアフリカ国内にとどまらず、

アメリカ・コロラド州で行われた、世界 YMCA 大会でのユースエンパワーメントの発表にも大きな影響を与えました。

S2C プロジェクトに参加するようになって、ユース達は自信を取り戻し、精力的に活動し始めました

5年後のユースエンパワーメントの展望を教えてください。

既にアフリカ YMCA 同盟と世界 YMCA 同盟は、アフリカのユースエンパワーメントを推進してきていますが、これまで以上に活発でより多くのユースを巻き込んだユースエンパワーメントが進めていきます。そして YMCA に関わるユースだけでなく、それぞれの地域のユース達が積極的に活動していくことを期待しています。

S2C プログラムが今後も精力的に活動を行えるよう、私自身も最大限にサポートしていきます。そして多くのユース達が“主体”となって、諸課題に立ち向かっていく姿をこの目で見たいと思います。

下記 URL にて、アフリカ YMCA 同盟による S2C の様々な報告書をご覧ください。

<http://www.africaymca.org/k2generalinfo-8/item/337-2010-s2c-report>

世界 YMCA 大会の動画公開中

世界 YMCA 同盟 2014 年 9 月 10 日配信

第 18 回世界 YMCA 大会がアメリカ・コロラド州のロッキーYMCA にて行われ、83 の国と地域から総勢 1,300 人が集結しました。世界 YMCA 大会とは、世界の YMCA の仲間達（スタッフ・ボランティア・委員）が 4 年に一度集まり、YMCA の今後の事業方針を決めたり、普段会うことのできない世界中の仲間たちとの交流の時を持ったり、YMCA の価値や展望を分かち合ったりする機会です。今回日本からは 28 名が参加し、うち半数はユース世代です。ユース世代の職員だけでなく、専門学校生や、ユースボランティアリーダーも参加しました。

その世界 YMCA 大会の様子が YouTube で公開されています。World YMCA という世界 YMCA 同盟のチャンネルとして公開されていますので、ぜひご覧ください。

YouTube の World YMCA チャンネル：

<https://www.youtube.com/user/ymcaworld>

